

中信地区果樹栽培反省検討会に参加！（Vol.24 令和7年11月）

中信地区における本年産の果樹栽培の課題と対策を検討し、今後の栽培及び技術の向上を図るための検討会が、11月12日に松本合同庁舎において松本園芸推進協議会他により開催され、全農長野やJ A、県関係者など50余名が参加しました。

当地区では本年、春先の降霜被害は小規模に留まり、台風による被害も無い年となったものの、一部地域で降ひょうによる被害が発生しました。また、夏季の記録的な高温により、果実の日焼けや着色不良などが大きな問題となりました。さらには、雨が少ない年となったことから病害の発生は少ない一方で、果実の肥大不良や害虫による被害が目立つ年となりました。なかでも夜ガ類、カイガラムシ類、シンクイムシ類が多発し防除の難しさが課題となり、これらの対策についての情報提供と、闊達な意見交換が行われました。

南信農業試験場からは、日本なしにおける日焼け果の発生状況と、その対策として樹園地内の通風改善と着果位置の調整、かん水の重要性について情報を提供しました。また、日本なしの主要病害である黒星病の発生状況とその対策に加えて、発生が増加傾向にある心腐れ病対策については薬剤散布のみではなく、適期収穫の励行や、冬季せん定時に胴枯病が生じた枝を切除するなどの総合防除対策について紹介しました。

これらの情報が県内の指導者を通じて広く生産者に共有されることにより、次年度に高品質の果実が安定生産、安定供給されることを願っています。



検討会の様子